

落穂集

卷之三

			和書門
二	五	二	七
一	九	二	七
五	一	七	五
冊	架	函	號

庫文閣内			和書
七	五	二	七
〇	二	七	五
函	一	五	五
一	冊	架	號
二	冊	架	類

内閣文庫	
番號	和 25275
冊數	5(3)
函號	170 89



Kodak Gray Scale

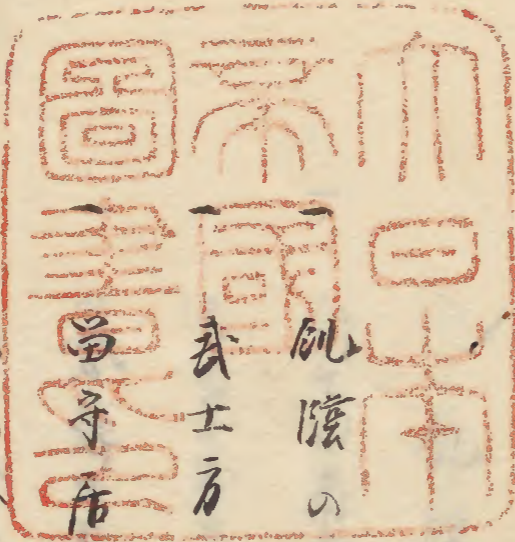
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



落穂集 卷之三



目録

飢饉の事
武士方勝子修の事

後始の事

大若方家風の事

煙草始の事

肥後國守護職の事

津成老津目見の事

東叡山寛永寺の事



大道寺及山總文

- 不出亦賦天の事
- 秋倉伊賀の事
- 以茶津常地留や衣履の事
- 宗粟沙別標の事
- 巧糸切支村沙出敷の事
- 慶長五年以後沙一統の事

落穂集卷之三

飢饉の鳴の事

一 聞て曰高所代小成りる頃の事か江戸町中の春の虫限候か
 言ふ小ぬりとして羽を食糧も多しお春候尤の者も有し多
 中一傳の飢饉沙汰の候か何と云聞なりかさて曰秋標の事
 及ハハ 大新院柳津代出常地の事同屋仲らり
 の者も中買の町へかといふと名を頼及米の置立と候くを上諸
 方への入船と押ハカ候て町中の春の虫限候か上らり有り味と
 強くは 作有り候と悪く相おし同形中買を餘り出候と小
 相ぬり候 浅草由蔵氏の事少く右町へたと同意候く毎有

の洋りもれく諸國一運送は一使り自由と有り候は是傳ふ

東照宮御の由神徳と云て天下の流の由大切と云三益を傳ふと

云ての由事一也云ふ仍し慶安の庚子年と云て百三十年や友

し傳へん大仙傳の事と有り候運送の自由也と云ての事と

云と云て考り清と云て天地の災難と有り候て人の一和と云

かハ概合不し通程と云て事一也と云ふ事一也之由云と云諸

の諸他のお来ぬお来ふ仍し東春の仙傳と考り一和と有り候て是

事一也事一也傳ふ日本國一也事一也事一也事一也事一也

也事一也事一也日下候は慶長年中

權現様御代と云云 仰る向後の事由領私領小由限或は早候

風候水が候しそ田畑換毛米穀等漸々の由事と事細言上て

仕方の仰る候故唯今小由一國一郡之言又ハ此代官内中

書付と云て公儀の由知是所由由事一也事一也事一也事一也

小由事一也事一也事一也事一也事一也事一也事一也事一也

来し傳り候し如天災の仙傳年採廻り事あり候て事一也事一也

災難小違死亡仕り候し事一也事一也事一也事一也事一也

武士方勝手傳の事

一 國々曰當時の候ハ諸大名方と云て其諸由領本元又承中

小由限十人九人通ハ勝手とす事一切事一也事一也事一也事一也

稀也や有し由ハ己氣あり事一也事一也事一也事一也事一也

世ハ大取小取ハ多ク其家ハ取上ノありぬと有テ所ハ百
姓ハ保保ノ類ノ事ハ悉ク其處ハ有ノ也也と子問テ一ハ
此世ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ一有一人ハ其ノ事ハ其ノ事
ハ一人ノ用ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ一有一人ハ其ノ事ハ其ノ事
ノ取ハ別テ権威盛ルキトモ有士トモ一有一人ハ其ノ事ハ其ノ事
ハ格別ト有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
也とハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
と云ハ一人ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
仕立ト成テ世ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
護ル一人ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ

を別と成て用治事ト成テ取トモ一有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
護ル一人ハ其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
其ノ事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
命恙カ一トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
と世界トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
取保ト有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
の事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
世の武士の事ハ其ノ事トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ
トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ有士トモ

金あるも減らんとて後日向く小遠の侍に末言の儀は又
かち有るが保ちのや頼と仕作し知れ承承もかた小次郎の
と後の義ハ引とら成史を信令保も言もして又さう切と
ハ成り多小次郎ハ言ハし思下して後若年の頃近大右方の
中ハ小次郎の御侍の御侍とてハ言ハし後侍の御侍とてハ
分と世上ハ取沙汰の言ハし知れ小次郎の御侍とてハ言ハ
中の侍は道七様とて切り有るハ知辱の御侍相得魁
や角と後保令と仕作り切り有る事ハ小次郎

南守所役娘の事

一
因て曰々時諸大右方の事と云はれ南守所役とて有るハ
ら南守所役の御侍と云はれ南守所役の御侍と云はれ
右徳尾孫中代薩摩中御言殿事と云はれ南守所役の
其ハ遠國取所南地の事ハ相聞ルと有ハ時ハ南守所役の御侍
御侍有る事ハ南守所役の御侍と云はれ南守所役の御侍
南守所役の御侍と云はれ南守所役の御侍と云はれ南守所役
御侍ハ右御侍ハ南守所役と有ハ南守所役の御侍
出でて頼事上ハ通ルハ南守所役の御侍ハ南守所役の御侍
南守所役の御侍と云はれ南守所役の御侍と云はれ南守所役
御侍見事ハ南守所役の御侍と云はれ南守所役の御侍

るがと下かま時代は浅往同播磨殿と川八の伊後の國の内江常寂
とみ郡と領領のまき唯み石の飛上かた得た元康元年癸亥
般家おきののまをたてあとのみ石系合是は万平一の松子と美ハ
自平と二方お有しんが表川の番人とを誦物とて妻子と侍門の
あてハお及下御除言道とも唯ま入かた物りやく有る或時誦とわ
番洲ハ所合中一外ハお大和殿ハ其あまこと此は誦物かか房を
門と同ハたま入初御殿ハ誦物他行かか御殿とあしかうら
中ハとあま子位の時剛少と御弟とあま事ハかた心後遠子持の番人
あま事と有し誦物あま止かぬ是御定と少人と入かた御
如く有しんが同平の大火の帝同播磨殿屋敷も類院設し

後善請お牙移位の帝ハ門番と御士之入りと在定り若も播磨若
御と有し御と位をへり上番とて御同法かか御殿かた同
同と曰今時請大右方の家と小御とを夜九か上下と云し御事と
ハ帝肩衣尻振とてまてまてはま振ハ有しんが御事と云し御事と
あま事と曰御振若年の帝ハ御事と御事と御事と御事と御事と
行ハ九方の家老用人ハ振のまはま夜九か帝肩衣とて御事と云し
有しんが御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し
の者毎とも御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し
御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し
由有しんが石同播磨殿家老とて御事と云し御事と云し御事と云し
御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し御事と云し

簡世の撰り物もすまむの世傳のた人の物語はむすまの物も
重彩の流行祀のやういふのとて重彩のゆふに存り世同問て曰
つともの 出代のももりも重彩と傳りてと諸國を
河原屋を 河原屋のゆふも重彩と傳りてと諸國を
河原屋を 河原屋のゆふも重彩と傳りてと諸國を
とて河原屋のゆふも重彩と傳りてと諸國を

左徳院御沖代ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を

ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を
ゆふも重彩と傳りてと諸國を

水後國守護職の事

一 國を曰くらの領の領主なり

日比津河津城國を山岡者にして建てて七ヶ年前に法を建てたの事あり

是年中を急かざる 古くは早急物にして候ふ事 城守は山岡

て末くして大か行と決りし事の有らざる事あり

及ぶに言て曰く代と家系の子孫あり

本所陽極津代領ありし事あり

早か以後則ちの事 伊予は山岡に於て誰人 許領をなす

有し江戸中の諸人 國年と違ふ事あり

能く山岡の事ありし事あり 山岡右水後の國主の山岡との山岡は山

座の中は領の山岡の領の事ありし事あり

山岡領を主領事ありし事あり

山岡領の領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

山岡領ありし事あり

例の由諸ハモウレ高ガの持主の儀ハ御中ノ般光有ク如ク今
子の角ハリシモ多押ハカテハ別段モウレモ有ハ公認ハ
三調子ニ成但モ茶入の儀ハ棄名トモ聞及シテモ有キ事
ハ一ノ採買未代物ハ取テモ御所ハカテハ一覽モ有クハ
カテ事済ム人の儀ハ今子トモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
御中ノ般光有ク如ク今子の角ハリシモ多押ハカテハ別
段モウレモ有ハ公認ハ三調子ニ成但モ茶入の儀ハ棄名
トモ聞及シテモ有キ事ハ一ノ採買未代物ハ取テモ御所
ハカテハ一覽モ有クハカテ事済ム人の儀ハ今子トモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
御所ハカテハ一覽モ有クハカテ事済ム人の儀ハ今子ト
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
御中ノ般光有ク如ク今子の角ハリシモ多押ハカテハ別
段モウレモ有ハ公認ハ三調子ニ成但モ茶入の儀ハ棄名
トモ聞及シテモ有キ事ハ一ノ採買未代物ハ取テモ御所
ハカテハ一覽モ有クハカテ事済ム人の儀ハ今子トモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

と云々今度此後の圖主ハ御川般光有ク如ク今子の角ハリシ
モ多押ハカテハ別段モウレモ有ハ公認ハ三調子ニ成但モ
茶入の儀ハ棄名トモ聞及シテモ有キ事ハ一ノ採買未代物
ハ取テモ御所ハカテハ一覽モ有クハカテ事済ム人の儀ハ
今子トモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

御成光沙目見の事

一 圖主曰儀云々

御成光沙目見の事

御成光沙目見の事

御成光沙目見の事

御成光沙目見の事

御成光沙目見の事

御成光沙目見の事

河代の殿と也則及の言て曰あるの兼及の元和九年

家光將軍極河代山建三の思古の有しそ梅三年寛永元年

山普請の始り開山六日光山の別為天海大僧正也奉行はる井大

須殿の中園東はつ八回の名江下上府内か天台主門の寺院とい

かかきし浅草寺の古い古政の氣多と成てゆり務不ふ

作行の爲今な新ふゆり務所ふと有し寛永寺と山建三の上ハ

向後山藏心午日の出り務たか東殿山は行て山執行の 作多をく

その氣か山蔵と也仍し上野一山坊殺の氣も浅草寺小准とこ

後六坊小を徑と有し知か浅草寺の氣も山蔵と也進は傳地といりか

千年小餘りさめり古法多と成て山伏同修の妻帯坊主すとふ

三六坊三束り東殿山の氣ハ新地のさめり得と也何と儀かの山建三
地と有し山蔵と也三十一坊の寺院是れかふて也三十一坊ハ山蔵と也

の惣奉行云井大須願殿中ハ東殿山氣ハ天下安全のゆり務の

乃と有し思古と成て也儀多々今度山建三の氣もと有し山蔵と也

高家の山蔵と也成りも一か山蔵と也方ハ誰とて天下安

全の山行務ハ山蔵と也一か山蔵と也一か山蔵と也一か山蔵と也

及ハ是ハ大須願殿中ハ通り也ハ慶長五庚子年と也山蔵

山蔵校中門方と始り山蔵代大右衛門の氣ハ及て山蔵校の

之も山蔵校大右衛門也

東照宮の山蔵校を以て

河代山蔵校の山蔵校と也山蔵校の氣ハ及て山蔵校の

皇令の由祈禱し終るに及んで上より下の成敗と有り御申山家
方には伊豫と殿前は後列と有り上野の地因の程を家祀不陸地
の別殿一保し有り早速寺も建

権現様の少額とも少額ありて天下山家令の由祈禱言 承運
長久の祈禱とも山家行有りとも有りとも有りとも有りとも
國より方から一院死産立して寺領言とも寺領ありとも也と後
在徳陽極は他界を他増上寺に有り 入るに諸大名方ハ他奉
海家の時の乃と有りとも有りとも増上寺に有りとも有りとも
一の寺後進も東殿上中の院とて祈禱所と有りとも有りとも
安年中 大徳陽極は他界を他増上寺に有りとも有りとも有りとも

先山より 入るに諸大名方ハ他奉
右の系群も有り 祈禱所の地位奉海家の儀も有りとも有りとも
右の祈禱所とて将來の忌替不と有りとも有りとも有りとも
院とて初禱主方の系とも有りとも有りとも有りとも有りとも
山家の由祈禱系と山家の由一山家有りとも有りとも有りとも
山中の寺院に有り天下山家の由祈禱と執行は苦とも有りとも
有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも
本末大小と有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも
五朝々祈禱と有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも有りとも
小恩と結謝し奉るの儀也唯今増上寺内に於て諸大名方の有

坊教十行有しり得ん

権現様の清尊像を寺

堂にていせし上野一山三十六坊の中かあり尊像のせし屋寺とすてい
きなりしせしやく有る布通ふ寛永年中東叡山清り初開の古
くを天下の文全所為すの或違長久の山行禪と云て内建三々有
ての或也まを云て考へり得る寛永寺の或い天下清り全の山行禪
所の根元を云てすり也

不忠沈弁賦天の事

一 同て曰唯今の或忠の沈中務の或い云ふ有来りある事かや言
て白右中務の或い案案及川の東叡山開てり後天海僧正と水
谷伊保寺殿あり入魂ありり或時僧正の方一水谷振也か案案

此師伊保寺殿ありり高山の或い都の叡山は准り得るを東叡と云
る事しり案案あるの沈有る事の或いなる沈の湖月山准り得る
中務と案案生得と云へり天雲と建三ありりていあり也僧
正開好ひてまを案案も頼り得る池水跡の介得く中へ案案
らきり案案ありり中諸介ありり案案通るか後案案也伊保寺殿
ありりい案案何程の水底深きかも後せ小池一ツあり飛案案と有
いとん易き案案小の案案ひ世度浅草川 除の内譜請り 伊保寺殿
ありり人まを除り案案案案右の内譜請り五所清り五小池中の清
譜請り有り十日身りうろ人案案の正案案と云取場と高山の
中かてり案案ありり得と有る得る大僧正ありり人案案の所案

小成の人と天咫の山と三ノ木大切の京都と山形とを任程の人光と
依て公儀の山形とを成山町成山切の山形と依て
左中方の山形とを世人の物とて一保有し一保有し一保有し
く自分の任念下通うとて遠慮事一上ありかくの任念小成格人
の山形と依てとて成山町一保有し一保有し一保有し
と伊豆の教格の山形と一保有し一保有し一保有し
仍希御前地留小成後の事

一
同空白山南地留と成山の山形と依て一保有し一保有し一保有し
ハ一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
権現様の儀あり
徳院様
大徳院様

河代道七山形と依て一保有し一保有し一保有し
篇とて七包とて一保有し一保有し一保有し
きき時分小成二ツ成用の山形と依て一保有し一保有し一保有し
と一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
登る事一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
上下小成格事との山形と依て一保有し一保有し一保有し
中一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
の家中小成とて一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
成用の者ハ一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し
の山形と依て一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し一保有し

色重なるかひなきを以て没後と却り者多きも并樂あつていし免
せしむ何れもしり并樂と沼塗か仕てきりやく有く町人職人木の
あもみ十以上小石か入の法所保清者ハ山類とテ上り得と右の并
樂とゆ免をたやく有く今時のゆ免を認保中者ハ三つをせきし四
座の様樂九ハ山類とテ上り着とる限并樂とゆ免を認保同一小
黒く塗つてきりかひなくの并樂か防もきりかひなくのあもみ有くをせ
左并樂のあもみゆやくと儀の沖用と相初め者ハ橋本三郎とやらん
P多町人山類とテ上法所仕橋本源入と改名仕山類山見日の事ハ
不消儀の并樂かむ福進宗あり并山類同月中迄と見ぬをきり
ハ何者ゆゑに并樂かむをいふもあもみやりゆり相儀ハ沖用とぬか

物不保人々者の中P山類と山見同有れども能山類違ふといふも
近市樂ハ山類と山見とをいふ山見と山類と一ハあもみゆやくと名違
いといふゆゑのあもみ保人ハさ不違儀はゆゆ所不違ゆは並樂
木匠樂師殿を 城のまじり保人と山見を是同有れどもあもみ儀ハ何
改む元小石か入と身有くゆやくとて町人類の者のあもみゆやく
いふも保人あもみのあもみ山見同也ハ世に近市樂ハ山見と山見同
いふもゆやくゆやくとて山見同也ゆやくゆやくゆやくゆやくゆやく
P山見同の取と山見同保人あもみゆやくゆやくゆやくゆやくゆやく
近市樂ゆやくと相とるゆやくゆやく調法ゆやくゆやくゆやくゆやく
首領ゆやく世親ゆやくゆやくゆやくゆやくゆやくゆやくゆやくゆやく

し得る千石の雲に紅葉の園中へ悉く切支丹のやうに居住せしむ城中小
に立末ののまゝ入道の中より切支丹一隊の者ありて種や三羽の種半若
より人の者れ城の一隅を以て田畑を種中と云ふ所ありて
高車とはありて中かともいふ侍の者ありて油取れり種半若
廻りと云ふ一城と異國の守りり多列斗か城と種半若一人殺
林のありてありていふことありて種半若の城ありてありてありて
是れも千石の隅の隅の多光の隅の隅と云ふ人殺と云ふ
領を城と押ありて種半若の城ありて種半若の城ありて種半若の城ありて
使者と云ふも千石の隅の隅の多光の隅の隅と云ふ人殺と云ふ
かきりてい相介と云ふ事り種半若の城ありて種半若の城ありて種半若の城ありて

伯殿と云ふは平浪の都と云ふは有と云ふは種半若の城ありて種半若の城ありて種半若の城ありて
後長治の政所と云ふは高田の城ありて種半若の城ありて種半若の城ありて種半若の城ありて
是も切支丹の守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ
と種半若の守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
也等とも云はれり文彦の守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
今も時雨の急所と云ふは江守の守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
京都合朝の時也 城ありて七と云ふはありての守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
大徳殿に守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
城ありて種半若の守りり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ
しりり多列斗か城と種半若一人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ人殺と云ふ

多事はなる 在件の奉書と出候一か此也同因て曰石切文丹以取
の事は 作りの初の候にも有らば此高地酒井諸夜と教を以て
物同加置り教内者帯刀殿と何やらん口論小及殿不事小
如も手紙を以り知小口亭と諸夜と教出取互交事作り如也
世上の五沙信は候と云の事及か言て曰く事と云事及小右
系書は其の極意因監正殿と如く事同因り而も毎度の此進の
紙も亦方諸大石の事申す候と事討死の有る候云と云
如くとの事并云日 一方極小ハ酒井諸夜と教と云
右系書の候と因者帯刀殿の事候が古事有らば候事と
方討死候一 口論と聞て是れ小也 上云并諸夜と教

小河城の帯刀殿の事候と云候事候事有らば今七時
余の事し育の内出語り候小と申す事と云事同因り候事
事 古今候諸夜と方帯刀殿の事候事候事候事候事候事
自記して帯刀殿の事候と云候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
と教中の事と帯刀殿の事候事候事候事候事候事候事候事
の事と云事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
者と云事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
時小候と有らば小事や角も合され候事候事候事候事候事
尸と云事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

内上備後福山の城三水所義隆と殿走平の江 作事と改地
文書と也そふ湖の老天水所日島と殿勝がとそふ人の義八園
東大飯島所の陣かも武切の人かも有と得とそ頃ハ徳也
水所宗休とそ陸分遠有身才ハ八所とそし得見徳宗表の山開
江作事ハかそしそ有とそ美作と殿とそとそとそ 作事ハ宗大
宗休とそふハ石城江平伊と殿高丸門殿採ハゆとそ會有
くんとそ 次ハ城表福井の城トと殿と作事ハ陣と殿と有とそ
そ子所有とそ事の中右徳宗表の儀時宗と有とそ同子の義
招事伊隆と殿頼ハ平一上ハ今所為宗表切と舟山殿殿の義
末切所義ハ伊五才ハハ今所為宗表の延引ハと有とそハ後代迄の

開ハもや何と殿義 福山 作事ハ宗大の御とそ早速を向ハ端信ハ
少元山所と有とそ上ハ得とそ上開ハ達とそ 作事ハ宗大上ハ
致事満信ハと殿頼ハ殿ハ山所産招とそとそとそ招と有とそ殿
時言ハとそ津原代と有とそとそ殿とそハ指所 切と舟連と殿
殿と有とそとそとそとそとそ 且言ハ 作事ハとそとそ
右頼ハとそ上ハの義方宗中殿の侍ハハ内とそ招とそとそ
後ハとそとそとそとそとそとそ 同開とそ右宗表の殿屋云
所ハ宗ハとそとそとそ後宗内徳宗殿とそとそ殿ハ又山所中方の也
少とそとそとそとそとそとそとそ 作事ハとそとそとそとそとそ
四箇中開ハ達とそとそとそとそとそとそ 作事ハとそとそとそとそとそ

國史の源末表の如きと云ふ所と存者の義ハ皇清受順と云ふ所能
諸代の勅目の有るはせしと云ふ所頼以てあるは後世と
申すこと又保科昭徳の如きと云ふ所頼以てあるは後世と
頼以て皇清の如きと云ふ所の立派は頼以てあるは後世と
も及最上の如きと云ふ所頼以てあるは後世と
有るは或日の徳方御用御用の徳有る所也 頼以てあるは
中の奉書に有るは世上の徳方の通る所末表の御用也 頼以てあるは
こと頼以てあるは徳方御用御用の徳有る所也 頼以てあるは
頼以てあるは徳方御用御用の徳有る所也 頼以てあるは
頼以てあるは徳方御用御用の徳有る所也 頼以てあるは
頼以てあるは徳方御用御用の徳有る所也 頼以てあるは

又海嶽の如きと云ふ所

権現柳沙世の弁

皇徳院極々御用御用の如きと云ふ所頼以てあるは後世と
まひと云ふ所頼以てあるは後世と
と所頼以てあるは後世と
地ハ古来より奥州押入の場不有るは後世と
上表と云ふ所頼以てあるは後世と
城の如きと云ふ所頼以てあるは後世と
て切支丹傳記の如きと云ふ所頼以てあるは後世と
悉く討殺し一掃と云ふ所頼以てあるは後世と
南と云ふ所頼以てあるは後世と

集りり弟取事おつるはぬあつとふ事也平竟九州の内小候と
治しあつ山譜代大君のあつ取の事此事の未だ少候内小候所方
一草のつひ方とあり上り山番揚有つらつ又直の事是れ小及
領地と云ふ取取上と山流く事候してつらつと云々悟と極らずと
ハハ時の山奉公候ハぬ難き事也とありつと也御事候ハ付州の内白
若く山の内百世迄伝書流し御代元小権とつと云々を討殺
しつと有企の事云後取ハ及ハハ得ん人殺す事故内印官元の小
及ハハ下つと取て最上と云ふ事主取とつと遠り有也後取般山守
あつ保科長部と一承老事御事一書らつとつ有民於白若
百世傳の内百世九と時集少候と在遠知小是遠し山印官元

平領川流ハ古遠取く百世傳の内印官極りつ有民於百世傳ハ
ハ下方取つ方取て取の事ハ御事也 又儀の内印官元と相小候
この事取れハ江上表々の事取計の程も取の事りつと難事云世古
也後取般山傳の事取とハ連判の者ハ事りつ今取ハ後取の所
取最上ハ百世傳内印官一やく二三人程取事りつと小程取計
取内小取ハ御事取計ハ取計ハ連判の内印官と取也也後取般ハ取
御事取一取也取取て取の内印官と取一取小取計ハ御事取計ハ取
取有御事取取ハ取ハ取ハ民部御事取取取ハ取連判取最上ハ取
民部取取取の通り二人三人取取と取取取取取取取取取取取
取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

与殿也開ありて右の百姓ととも預り申す川口一集衆は十付
衆小と有しり月象老奉許渡の者在る右の者のを也重科
の有るはし得ん 皆初てり鎮下の百姓たの或しし得るを高き八字金糸
れし一集二集江戸表の河の上より山は五五御月三坊中上得とも
此後と殿となくんぬ小延は許し立ふは及我地早しは是より是
小中より自に世日朝唐の来と初に於て三十六の者且是く集
衆小中より自の上白岩の仕立とも沙汰ありて是年一坊から後江戸
表言上は及りては後山南地に於て諸人の言沙汰は世度最上
小致と此後と殿集衆小中より自の科人の後ハ三集山藏入の
百姓たの儀小と有しり得る一集江戸表の五就個かそ上の仕

立り下月と二十人小余り多し集衆と自分仕立とも八坊より此
高きの山南地に於て諸人の言沙汰は世度最上 仰もも雅斗
林下猶も知小此後と殿集衆の言上ハ則年の通り上度集
そ日の儀方因信儀も殿と上使とてり向後 公儀内政替の
儀小致とも存分有りしに於ては一集江戸表の五就個かそ上の
儀世上に於ても沙汰は世度最上 石集衆の言上沙汰ありて是れは
因て曰右邊表の言上ハ自の言上も高地を海より別 石谷
十藏殿奉許渡の言上 白岩中より山南地に於て河の
上集保有しり許しり門番の言上も高地を海より別 石谷
亦言上曰十藏殿奉許渡の言上も高地を海より別 石谷

十九年不元和年中道五度及び大坂陣と有りぬ

河内柳屋山初彦は日本國の諸大名に御津あま川地方の事ハ中
名及壽の元の方ハいそむる度一ひりハ戦死の人数に余多の事
あり有し是時天下の諸勅とわが事とを氣に取るといふ事ありぬ
世に白得難くは事と云ふ事の通う一息も用ひぬ候はれ
ぬの道理は事と云ふ事ハ服に役は病身より長考とありちや
者もこれ一その事ハ二度と二度も余程の大坂陣と有りぬ
ていさしは物と云ふ事ハ長考の底ハぬありぬ候はれ
御代と有りぬて天下の國はたかへぬ事の諸勅と有りぬ候はれ
てけし事ハ物と云ふ事ハ諸勅と有りぬ事ハ大坂の事

の陣の事ハ及運の諸候に譜代の指令御在りし事ハ子細ハ慶長
慶長元年の事ハ秀頼御ハ初年ハ有りぬ事ハ母儀の諸候ハ及運迄
方一味と有りぬ事ハ物と云ふ事ハ及運の事ハ及運の御秀頼
の儀ハ及運上御事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
平太夫ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
持と云ふ事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
臣職ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
秀吉の儀ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事
乃ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事ハ及運の事

成茂母殿物太弟大達為太弟岩卷市松保子三人の中身既
や同波と也又介信と信長公のたまふ所を村栗並茶臼小治
播州姫給の歌主道が成りし州明智日向の道心信長公
も亦小山宗を成り初秀を云ふ備中の陣場を道小を尋ふも
都の山崎表を初て我と遂達信の明智と討果しと後葉岡崎
家津川一益保と相治し一反ハ信長公の山崎と相治五持の母合
と其後得真真ま小ハ自立の全と合と成りて右右少の事也
七王の子の成田と七信存と信と切也信確郷保と小治小討
果公成ると有しと山親又信長公と山久親有し初と成りて
権現保尾州小牧春山月此山馬と云ふ信確郷と山親と成り

以て信確郷進討の美秀を云ふハ但世難く一場ハ和信と謂へ五天
正徳年山崎春と政云しと後信確郷の美上成上と果し
流瀬ハ自主公の領知とハ嫡孫中納言秀信と成ると成年
城地指三方石と云ハ割ハ自分の諱の子と授け秀信と右宗也
ハやく成り我と云え未清和源氏の山崎流と云ハ上後遠二
甲信と合し大回の山守護かし山産と成秀を云と再ハ山親の
弟ハ瀧中納言殿入ハ後河大納言殿江戸内府公保ヲ奉り秀
吉とハ公郷仲方方の山合と云ハ道の美山と豊後守の幕小治
ハと云ハ初めといはし初海秀を云のや美小治と成り山親と云ハ
とも云し山親秀頼郷の山ハ成り山親ハ成り山親と云ハ

通りの事か知親又秀吉云と云ひあつて山内有る節月の位と云ひ
 諸條出あり〜ふひれ〜と云ひ如く史と云と有節并と云〜と云ひ
 ずり山内有る三と云り割〜諸節条〜射〜山内射の逆意と有〜と
 言諸小池多り言別と有者光か右と云り通り親又秀吉保の信
 長云のう忠か頭らと云と有い云て兼〜雅〜事たか不〜と云
 出と云節条及信長云の子孫方〜射〜と云り多〜多〜光後保
 有〜不〜不〜保の思ひ合と云〜秀頼も右事との言別と云り
 有家老の大所 彼保也と云の木村渡と云事と云合と諫事保
 して押〜と云ひ〜と云の道理と云〜多〜家未た〜と云り後分
 ち〜と云ひ〜と云合秀頼保の言別と云保長は保のあり〜取上と
 成し不為及れと有い後念のありは是難保事と云り〜と云ひ〜と云ひ
 有節〜と云ひ〜保人の中〜と云り毛利豊前守長曾我親家因幡守田
 左馬助保林と云い〜と云一礼の言も逆意方と云山内射の者も有
 ことと云ひ〜と云言り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り
 保〜と云り〜諸保人〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り
 けり〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り
 御所保の事も是れ不山内保は極大改表の山江並に 保有直意の類
 也と云後凡不有〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り
 あり諸大名と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り
 保も有〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り〜と云り

公儀と云お〜と云り終と

と有山能法つては山能法と云ふを考ふに上りてはつと云ふ
つて是也 藤の山能法に於て所は山能法に山能法有知
目付と云ふ行要の事ありて一同同て曰く藤の山能法に五世の
時 権現権は人の事といはれりといふ事ありて
若くは山能法に御仲方の山能法に於て藤の山能法に
と云ふ事ありて藤の山能法に御仲方の山能法に於て藤の山能法に
の中を於てい見高しありて藤の山能法に於て藤の山能法に
を藤と染との藤傳といはれり藤の山能法に於て藤の山能法に
権現権の山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
藤の山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に

権現権と候攝かしては事なりと有知事と云ふは先織田
信雅郷の山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
権現権は山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
後姉子朝日の事と云ふは山能法に於て藤の山能法に
ても 権現権の山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
権現権は山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
又山能法に於て藤の山能法に於て藤の山能法に
日正坂中を於て藤の山能法に於て藤の山能法に
云々の式書道に於て藤の山能法に於て藤の山能法に

夏の次の間ハ二腰の刀佩と夏彦年付

権現様の山懐の由と信原郷の刀と見小惟見右の山刀佩不掛と見上之
母山登夏彦年付後山茶の茶ハ十宗易らむて秀吉云ふ代り洞。

は名小と事付する後天守二重目の度度成小由上りて成れは後山彦
心動と山懐一の山懐子小上りぬ小と秀吉云ふ名成は宗易易と云

権現様山懐少く五加(まじり)て母大坂表の山代を相所山彦四
の五種一の山彦成り五加(まじり)て母大坂表の山代を相所山彦四

山彦成りぬ小と有り事那石表樂の彦成り成り山彦成人小大和
大綱言秀長と事付有後成り山彦上京の五の山彦小と事那成り成

て山彦成り進一山彦山彦請方の名ハ彦成り成り山彦成り成り
行か事付ぬと成り山彦成り成り山彦成り成り山彦成り成り

是ハ彦成り成り事付小世後上彦の名成り成り時彦成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

道中節一山彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
山彦成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

中彦儀大政所と國持の成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り



德集卷之三

